令和７年（2025年）度　九州大学法学部　３年次編入学試験

筆記試験

（法学又は政治学に関する論述問題）

（注意）

１．問題冊子は、指示があるまで開かないこと。

２．問題用紙は（この表紙及び白紙１枚を除いて）１枚、解答用紙は４枚（２枚組が２セット）、下書き用紙は３枚である。「解答始め」の合図があったら、まず全ての用紙が揃っているかを確認すること。

３．「解答始め」の合図の後、すみやかに、解答用紙（４枚）の所定欄に受験番号を記入すること。

４．問題は、大問が２問ある。第１問、第２問それぞれにつき、解答用紙を分けて解答すること。

５．解答文は横書きとし、ボールペンまたは万年筆を用い、読みやすい文字で記入すること。

第１問（50点）

外国人は憲法上の権利の享有主体性を有するか。判例・学説の立場をまとめ、解説しなさい。

第２問（50点）

以下の事案を読んで、〔設問1〕及び〔設問2〕に解答しなさい。

Aは自宅の側に雑木が数本あるだけの傾斜地である空き地（以下、「本件土地」という。）を所有していた。Aの甥であるBは本件土地に隣接する家屋に住んでいた。BはAに対し、自家用車用のガレージを建てたいので本件土地を売ってほしいと申し出た。Aはその申し出を受け、〇〇年7月1日、AとBの間で本件土地の売買契約（以下、「本件第一契約」という。）が締結された。本件第一契約では、売買代金は200万円とすること、契約締結時にBがAに対して手付として10万円を交付し、残代金は同月31日までに支払うこと、残代金の支払いにより本件土地の所有権が移転すること、それと同時に本件土地につき登記移転手続を行うことが定められた。本件第一契約に従い、BはAに手付として10万円を支払った。

同月3日、Aは近所に住むCより、本件土地を250万円で買い取りたいとの申し出を受けた。迷ったAはCに対し、本件第一契約の件を話し、少し検討させてほしいと回答した。そうするうちに、同月5日、BがAに対し、本件第一契約に係る残代金の支払の準備ができたこと、できるだけ早く支払いたい旨を連絡してきた。それを受け、迷っていたAはCへの売却を決断し、翌6日、Bのもとを訪れ、今から20万円を支払うので本件第一契約を解除させてほしいと述べた。驚いたBはそれを拒否した。

〔設問1〕Bの拒否にもかかわらず、Aは本件第一契約を解除できるか、検討しなさい。

結局、（設問1で解除できたか否かにかかわらず）Aは本件第一契約の解除を諦め、Bのもとを訪れた上記6日に本件第一契約に係る残代金を受領した。ただし、登記移転手続についてはまた改めて後日ということになった。翌7日より、さっそくAは本件土地に重機を入れて整地作業を始めるなどした。

同月10日、Cが再びAの自宅を訪れ、改めて本件土地の買取りを申し出た。価格として280万円が提示されたため、AはCの申し出を受けることとし、同日、両者の間で本件土地の売買契約（以下、「本件第二契約」という。）が締結された。翌11日、本件第二契約に基づき売買代金の授受がなされ、AからCへの本件土地の所有権移転登記がなされた。

同月15日、BがAに対して登記移転手続を求めたところ、Bは上記事実を知ることになった。

〔設問2〕BはCに対して、自己が本件土地の所有者であることを主張できるか、検討しなさい。